

維新コメント

大阪維新の会の藤田あきらです。

大阪都構想については、本当に長い時間をかけてたくさんの制度論が繰り広げられてきました。そしていざ住民投票となれば大阪市の皆さんに、大阪の未来を選んでいただくこととなります。大阪都構想がいいのか、それとも大阪市のままのほうがいいのか、これをご判断いただくこととなります。

そこで私からは今日はですね、もう一度原点に立ち戻って大阪都構想の、このなぜ都構想が必要なのか。この点について、皆さんにもう一度しっかりと説明をしたいというふうに思っています。まあ、当たり前なんですが、今の大阪市に全く何も問題がなければこの大阪都構想ということをやする必要もありません。でも私たちはこの大阪市のままであれば、いずれ近い将来必ず大きな問題になってくる。そういうふうに認識しているからこそ、その対策として大阪都構想というものを皆さんにご提案をしているわけなんです。

このグラフをご覧ください。これは大阪市の財政局が作成している大阪市の今後の収支見通しです。ひとつ注釈なんですけど、これは最新のものはコロナ対策の影響なんかも入ってましてちょっと参考にしづらいので、今年の2月版で説明をさせていただきます。このグラフ見ていただいたらわかりますように、赤字になったり黒字になったり、この棒の上が黒字、下が赤字なんですけど、になったりしながら、この最後ですね、期間の後半に大きく赤字に膨らんでいるのを見ていただけたらと思います。これはもう書いてますように、今後の高齢化による社会保障費の伸びによって、将来的には大阪市のままでいっても大きく赤字になってしまふということなんです。お金が足りなくなっていくということになります。この社会保障費がどのくらい伸びていくのかっていうグラフを作ってきましたのでちょっとご覧ください。これも大阪市の財政局の資料をもとに作っています。過去10年間でもですね、この扶助費の伸び、扶助費という言い方をしますが、社会保障費は1,000億円くらい増加をしてくれています。さらに今後10年間でもまだここから1,000億円以上伸びてくる。今後このグラフは令和11年で切れていますが、この先どのくらい伸びていくのかっていうのはまだ推計が出されていません。この令和7年がいわゆる2025年、2025年問題という言い方をしますが、団塊の世代の皆さまが後期高齢者に入ってくるこのあたりから、社会保障費っていうのは大きく膨らんでくるということが、もうすでに今数字で明らかになっています。ここでですね、私たちはなにもこの高齢化が悪いというわけではないんです。高齢化自体は人が元気に長生きできるっていうことですので、非常にいいことだと思うんですよ。何が問題化かといえば、この高齢化社会を支えるだけのお金が足りなくなってくる。この部分ですね。お金が足りないことが問題になってくると思っているんです。

だからこそ、私たちはこのお金をしっかりと作っていく責任がある、そういう

思いで大阪都構想というものを提案させていただいています。

お金を作るやり方っていうのは、二通りのことが考えられます。まあ当たり前ですけど、一つは収入を増やすと言うこと。そしてもう一つは、無駄なお金を節約していくということです。大阪都構想ではこの二つを同時に実現しようという制度設計になっています。広域を一元化して、あとで詳しく説明しますが、大阪をしっかりと経済成長させていく。それによって将来の税収を増やしていく。そしてかたや大阪市っていうのは身近な基礎自治体、4つの特別区に細分化して、使うお金っていうのはもっと細かくチェックをしていこう。必要なところにはしっかりお金を使うけれども、必要ない部分、無駄な投資については徹底的に省いていこう。この二つをどちらかではなくて同時にやっていくというのが、大阪都構想の根本的な考え方になります。繰り返しになりますが、今の大阪市のままではこれはなかなか難しい。だからこそ都構想が必要だと思っています。

どう難しいのかひとつずつ順を追って説明していきます。まずは広域のほうです。

過去の大阪市の問題点ですが、大阪が成長戦略を描いて税収を増やしていこうというふうに戦略を練ったとしてもですね。この知事と市長の対立、これによってなかなか成長戦略がまとまらない、決まらない、進まないということが過去からずっと起こってきました。まあ、ほんとに一番ね、わかりやすい例で、ひとつの一例なんですけど、例えば2008年のオリンピック誘致なんていうのは非常にわかりやすいと思います。この時も、大阪市は成長戦略のためにオリンピックを誘致しようと頑張ったんですが、結局知事と市長の足並みが揃わずにですね、大阪市だけの力でなんとかオリンピックを誘致しようと無理を重ねてしまいました。その結果、まあ当たり前なんですけど、大阪市だけでは大きな力が出ずですね、国を動かすこともできなくて、オリンピック誘致は予選1回戦で敗退と。成長戦略が頓挫する結果になってしまいました。で、それよりもさらに悪かったことに、このオリンピックっていうね、ほんとに大きなイベント、大阪府下全域、もっと言えば関西全体に経済効果が生まれるような大きなイベントであるにもかかわらず、大阪府民880万人みんなの薄く広い税負担ではなくて、大阪市民だけでこのお金を捻出しようとしたので大阪市には莫大な借金が残ることになりました。この後大阪市は財政破綻寸前まで追いつめられるという非常に苦しい時代を過ごすことになってしまいました。

よく、大阪都構想の批判の中で大阪都構想というのは大阪市の潤沢なお金を府に吸い上げる、そういう制度なんだということをいう人がいますが、今のままでも全く逆の、この大阪市民だけに負担がしわ寄せされている、そういう現状が起こってきたわけなんです。

で、ここでですね、今よく政治をご覧になっている方は、もう市長と知事の対立っていうのは、今、維新の会によってなくなったんじゃないの、都構想やらなくてもできたんじゃないのって思ってる方がいらっしゃるんで、それについても少

し説明をしたいと思います。

ことはそう単純ではありません。仮にですね、この市長と知事が政策合意をして、一緒にこの政策やろうということまで意見がまとまったとします。でも、市長と知事がそれぞれ予算を使うためには、市議会と府議会の議決が必要になってきます。市長と知事が政策で合意したとしても、どちらかの議会が反対して止まってしまうっていうことが、これまでも度々起こってきました。もっと言えば、府議会と市議会では立場が違いますので、同じ政党であっても、府と市で賛成、反対が分かれるっていうことも過去には実際起こってきました。こうやって、知事、市長だけじゃなくて、府議会、市議会あわせたこの4者が全て合意しないと、成長戦略が進んでいかない、決まらない、ってというのが今の大阪市の大きな問題点です。これによって、税収を延ばすための戦略ってというのがなかなか定まってくない。これを大阪都構想では、もうこの4者じゃなくて、広域の成長戦略は知事と府議会にこう任せよう、というふうに制度設計をしています。

次に基礎自治のほうです。基礎自治のほうでも大阪市は問題を抱えています。大阪市ってというのは270万人が暮らしてまして、それぞれの地域にそれぞれの地域課題があります。でも、大阪市ってというのが一つのこの自治体なので、例えばこの地域に特有の顕著な課題、他の地域ではそれほど顕著になってないよっていう課題であってもですね、やっぱり市が一つの自治体ですので、同じように政策をうって税金を使っていく。こっちの地域、オレンジの地域では顕著になっている課題、他の地域ではそれほど顕著でなくても、やっぱり同じように予算を投下していく。こういう構造になっています。なので、それによって非常に非効率な税の支出が生まれてくる。こういう構造を持っています。都構想では、これを4つのエリアに自治体を細分化して、しっかりとその地域に根差した税金の使い方を実現していこう。この地域によってはこの課題あんまり顕著じゃないよっていうところには、予算を使わないようにしよう、必要なところにしっかり予算を付けていこう、というような制度設計になっています。

こうやって、この無駄な税支出を節約していく。それから、先ほど言った広域の一元化による成長戦略。この二つによって生み出される都構想の経済効果ってというのは、10年間でおよそ1.1兆円と計算をされています。これは経済の専門家が、マクロ経済計量モデル、ちょっと難しいんですが、統計手法によって計算した手法です、金額です。ここで一つ注意していただきたいのは、この金額には民間の投資は含まれていません。行政の改革だけでこのくらいの経済効果。さらにここに民間の投資を呼び込んでいく力が働いていく。これによって将来の大阪を支えていこう、というふうに私たちは大阪都構想というものを設計しています。

だからこそ、大阪都構想が実現して、大阪市っていうものがなくなれば、我々大阪市議会議員ていうのは職業がなくなります。にもかかわらず、まあ失職するんですが、それでも大阪市議会議員の7割近い議員が、もう大阪都構想に賛成

を表明してくれています。あとは住民の皆さんの判断になります。誰しも、新しい制度ってというのはほんとに心配、不安が勝つと思います。何も問題がなければ、変えてほしくない、そういう声もたくさん聴いています。でも、先ほどお見せしたみたいに、私たちはこのままいけば、大阪市では必ず税金が足りなくなってくる。体力のあるうちにしっかりと、この前向きな未来志向の改革を実現させていきたい。お金が本当になくなってからではこういう大きな改革はできないと思っています。

どうか、大阪市の皆さんの、本当に心からの大阪の未来を思う気持ちで判断していただきたいと思います。ありがとうございました。